

## 農福連携

**全てのひと々に健康と大きなやすらぎを**

## 活動の経緯

施設の開設当初から福祉施設内を開放し、喫茶店や銭湯の運営を行いながら地域コミュニティの一翼を担ってきたが、農業生産者の高齢化や後継者不足による耕作放棄地の増加などで、コミュニティの衰退のみならず、地域の活力が失われていくのを感じた。

そのため、新たに農業施設を建設し、障がい者の働く場とすることで、将来、担い手となり得る人材を育成することとした。

## 活動の概要

農業施設で農産物の生産を行っている。また、生産した農産物を使った加工品を製造し、それぞれ、地域の消費者や小売店へ販売している。



障がいがあっても身体への  
負担が少なく収穫可能

地域の生産者から農業指導を  
定期的にする

## 活動の成果、主な実績等

福祉農園（低コスト耐候性ハウス）を整備し、障がい者の新たな就労の場を作ることができたことにより、新規に1名の障がい者が就労した。

農園での農作業を経験することで、1名の障がい者が一般就労することができた。

農園で栽培したベビーリーフを、地域の行政施設や農産物直売所等での販売を始めた。

農業の技術指導等で地域の農業生産者と交流することができ、そのつながりから新たに1ヶ所、農産物の販売先を増やすことができた。